

ダイナ・ワシントン	バックトゥーザ・ブルース	29147	フィル・ウッズ	アライヴ・アンド・ウェル・イン・パリ	29151
	ラストアルバム	29224		フランクフルトのフィル・ウッズとヨロロビアンリズム・マシーン	29152
タイリー・グレン	アット・ザ・ラウンドテーブル	29242	フランキー・オルテガ	アット・ジ・エンバース	29215
	レッツ・ハヴ・ア・ボール	29163		サンセット77	29136
チコ・ランドール	リラクシン・ウィズ・チコ・ランドール	29220	フレディ・ハバード	バックラッシュ	29193
チャールズ・ミンガス	オー・ヤー	29020	ヘベティ・セント・クレア	ホワット・イズ・ゼア・トゥ・セイ	29171
	クンビア&ジャズ・フュージョン	29083	ポール・デスモンド	ファースト・プレス・アゲイン	29067
	スリー・オア・フォー・シェイズ・オブ・ブルース	29229	ボビー・ジャスパー	ボビー・ジャスパー・クインテット	29014
	チェンジズ・トゥー	29182	マーサ・ヘイズ	ア・ヘイズ・ネイムド・マーサ	29222
	チェンジズ・ワン	29181	マーティ・ペイチ	アイ・ゲット・ア・ブート・アウト・オブ・ユー	29087
	直立猿人	29019		ブロードウェイ・ビート	29040
	道化師	29082	マイク・コゾー	マイク・コゾー&エディ・コスタ&ヴィニー・バーク・トリオ	29015
	ブルース&ルーツ	29164	マイルス・デイヴィス	TUTU	29203
	ミンガス・アット・アンティープ	29204		ドゥー・バップ	29228
	ミンガス・アット・カーネギー・ホール	29142	マチート	ケニヤ・アフロ・キューバン・ジャズ	29074
	ミンガス・スリー	29021		マチート・ウィズ・フルート・トゥ・フット	29243
チャールズ・ロイド	ドリーム・ウィーヴァー	29106	マックス・ローチ	限りなきドラマ	29195
	フォレスト・フラワー	29013	マット・デニス	ウェルカム・マット・デニス	29089
	ラヴ・イン	29062	ミルト・ジャクソン	バグス&トレイン	29058
ティジー・ガレスピー	イン・コンサート	29103		バラッス&ブルース	29168
ティディ・チャールズ・トリオ	スリー・フォー・デューク	29085		ビーン・バグス	29190
デラ・リアス	ア・デート・ウィズ・デラ・リアス	29045		フレンティ・フレンティ・ソウル	29189
	アンド・ザット・リマインズ・ミー	29246	メアリー・アン・マッコール	デイトウ・アート・ウ・サム・ムーン	29041
	ストーリー・オブ・ザ・ブルース	29094	メイナード・ファーガソン	ア・メッセージ・フロム・ニューポート	29030
	ホワット・ドゥ・ユー・ノウ・アバウト・ラヴ	29172		ア・メッセージ・フロム・バードランド	29075
	メランコリー・ベイビー	29145	メッド・フローリー	ジャズ・ウェイヴ	29131
テリー・キップス	アット・ザ・ピアノ	29238	モー・コフマン	ザ・シェパード・スウィングス・アゲイン	29209
デルタ・リズム・ボーイズ	イン・スウェーデン	29196	モダン・ジャズ・カルテット	コメディ	29232
トニー・アレス	ロング・アイランド組曲	29110		淋しい女	29072
トニー・スコット	ジブシー	29234		ジャリア	29143
トニー・フラッセラ	トランベットの詩人	29026		たそがれのヴェニス	29037
ドロシード・ネガン	セプテンバー・ソング	29135		ピラミッド	29038
ニーナ・シモン	禁断の果実	29122		フォンテッサ	29036
	シ・アメイジング・ニーナ・シモン	29174		ブルース・オン・パッパ	29073
	ニーナ・シモン・アット・カーネギー・ホール	29223		モダン・ジャズ・カルテット	29167
	ニーナ・シモン・アット・ザ・ヴィレッジ・ゲイト	29148		モダン・ジャズ・カルテット・ウィズ・ジミー・ジュフリー	29207
	ニーナ・シモン・アット・タウン・ホール	29047		モダン・ジャズ・カルテット・ウィズ・ソニー・ロリンズ	29071
	ニーナ・シモン・アット・ニューポート	29121	モノ・カルイス	バット・ビューティフル	29099
	ニーナ・シモン・ウィズ・ストリングス	29249	ラロ・シフリン	ラロ=ブリリアンス	29213
	ニーナ・シモン・シンクス・エリントン	29199	ランディ・ウェストン	ウフル・アフリカ	29214
	フォークシー・ニーナ	29096		ハイライフ	29237
ハービー・ハンコック	エムワンティシ	29114		ピアノ・アラモード	29079
	クワッシュングス	29115	リー・コニッツ	インサイド・ハイ・ファイ	29155
	ファット・アルバム・ロトウンダ	29140		リアル・リー・コニッツ	29068
ハービー・マン	ヴィレッジ・ゲイトのハービー・マン	29078	リー・モーガン	リー・コニッツ・ウィズ・ウォーン・マーシュ	29017
	ニルヴァーナ	29159		アナザー・マンデイ・ナイト・アット・バードランド	29052
	メンフィス・アンダーグラウンド	29031		マンデイ・ナイト・アット・バードランド	29011
ハーブ・ゲラー	スタックス・オブ・ザックス	29065	ルイ・アームストロング	クレート・ユニオン	29029
	ファイア・イン・ザ・ウェスト	29016		トゥギャザー・フォー・ザ・ファースト・タイム	29028
ハーブ・ボメロイ	ライフ・イズ・ア・ミュージック・ブレンダード・キグ	29076	ルー・アン・シムズ	アット・セルヴァート・テーブルズ	29146
バド・パウエル	ザ・リタナー・オブ・バド・パウエル	29101	ルー・スタン	8フォー・キックス・4フォー・ラフス	29137
	バド・パウエル・イン・パリ	29032	ルー・マクガリティ	サム・ライク・イット・ホット	29162
	バド・パウエルの芸術	29051	ルー・レヴィー	プレイズ・ベイビー・グラランド・ジャズ	29109
ハリー・エディソン	パテンテッド・バイ・エディソン	29128	レイ・ドレイパー	チャーバ・ジャズ	29010
ハロルド・コーピン	ソウル・ブラザー	29111	レイ・ブライアント	アローン・アット・モントルー	29139
ビヴァリー・ケニー	カム・スウィング・ウィズ・ミー	29100	レス・マックヤン	スイス・ムーヴメント	29166
	ビヴァリー・ケニー・シンクス・ウィズ・ザ・ベイシー・アイツ	29125	レニー・トリスターノ	鬼オトリストアーノ	29113
	ビヴァリー・ケニー・シンクス・フォー・ジョニー・スミス	29048		ニュー・トリスターノ	29188
ビリー・エクスタイン	ノー・カヴァー、ノー・ミニマム	29088	ローランド・カーク	アザー・フォークス・ミュージック	29206
	ワンス・モア・ウィズ・フィーリング	29042		溢れ出る涙	29012
ビリー・ストレイホーン	ライブ!!!	29086		ヴォランティアー・ド・スレイヴリー	29063
ビル・ボッツ	バイ・バイ・バーディー	29219		天才ローランド・カークの復活	29107
フィニアス・ニューボーン・Jr.	アイ・ラヴ・ア・ピアノ	29054		ブギ・ウギ・ストリング・アロング・フォー・リアル	29230
	ヒア・イズ・フィニアス	29138	ローランド・ハナ	イー・ジート・ラヴ	29133
	ピアノ・ポートレイト・バイ・フィニアス・ニューボーン・Jr.	29034		デストリー・ライズ・アゲイン	29186

JAZZ MASTERS COLLECTION 1200

名門アトランティック、ワーナー・ブラザース・レーベル等に、新たに加わったルーレット、ルースト、ジュビリー、コルピックス等の名盤、初CD化のレア盤をSHM-CD仕様、特別価格でリリースするシリーズの第9弾&10弾。

第9弾 全50タイトル: 2017年6月21日発売

第10弾 全50タイトル: 2017年7月26日発売

24bit デジタルリマスタリング
完全限定盤 / SHM-CD仕様



特別価格 各¥1,200+税



JAZZ MASTERS COLLECTION 1200

第9弾(全50タイトル) 2017年6月21日発売

晩年のエヴァンスを象徴する永遠の人氣盤。

WPCR-29251 [WARNER.BROS.]

ビル・エヴァンス 『ユー・マスト・ビリーヴ・イン・スプリング』

- ①Bマイナー・ワルツ(エレーンに捧ぐ) ②ユー・マスト・ビリーヴ・イン・スプリング ③ゲイリーのテーマ
- ④ウィ・ウィル・ミート・アゲイン(兄ハリーに捧ぐ) ⑤ヒーコックス ⑥サムタイム・アゴー ⑦マッシュのテーマ
- ⑧オリジナルLP未収録曲 ⑨ウィズアウト・アソング/フレディ・フリーローダー ⑩オール・オブ・ユー

ビル・エヴァンス(p)、エディ・ゴメス(b)、エリオット・ジグmond(ds)

ビル・エヴァンスが70年代の後半にたどり着いた至高のトリオ表現。繊細なニュアンスと内省的な響きをもつエヴァンスのタッチが、これまで以上の深化をみせて聴き手の心に訴えかけてくる。ミシェル・グランの手になるタイトル曲。美しくも哀しい(Bマイナー・ワルツ)やジミー・ロウルズの名作(ヒーコックス)をはじめ、ガラス細工のようにデリケートなプレイの美しさに時を忘れて聴き惚れる、ビル・エヴァンスの“特別な”1枚。

エヴァンスの死後、発表された膨大なライヴ音源の中でも最上位にランクする傑作ライヴ。ホール・サイモン、デニー・サイトリン、ミシェル・グランらの名曲を中心に、繊細かつ格調高い演奏が並ぶ。

WPCR-29253 [ELEKTRA/MUSICIAN]

ビル・エヴァンス 『パリ・コンサート2』

- ①きみの愛のために ②クワイエット・ナウ ③ノエル
- ④アイ・ロマンス ⑤アイ・ラヴ・ユー・ボーギー ⑥アップ・ウィズ・ザ・ラーク
- ⑦オール・メイン(ミーニャ) ⑧ビュティフル・ラヴ
- ⑨ビル・エヴァンス・インタビュー(ビルと兄ハリー・エヴァンスの談話より抜粋)

ビル・エヴァンス(p)、マーク・ジョンソン(b)、ジョー・ラバーベラ(ds)

ビル・エヴァンスの“最後のトリオ”であるマーク・ジョンソン、ジョー・ラバーベラとの“パリ・コンサート”のステージ。ホール・サイモンが書いた(きみの愛のために)のトリオ・ヴァージョンや、ミシェル・グラン(ノエルのテーマ)をはじめ、エヴァンスお気に入りのメンバーばかりが静謐なタッチとともに演じられてゆく。美しいハーモニーの響きが耳から離れない、晩年のビル・エヴァンスの傑作アルバムである。

晩年の代表曲と往年の名曲の再演、さらに2篇のソロを含む豪華盤。

WPCR-29255 [WARNER BROS.]

ビル・エヴァンス 『ウィ・ウィル・ミート・アゲイン』

- ①ユムラード・コンサラッド ②ローリー ③ビルズ・ビット・チューン ④フォー・オール・ウィ・ノウ(ウィ・メイ・ネヴァー・ミート・アゲイン)
- ⑤ファイヴ ⑥オンリー・チャイルド ⑦ペリス・スコープ ⑧ウィ・ウィル・ミート・アゲイン

ビル・エヴァンス(p、el-p)、トム・ハレル(tp)、ラリー・シュナイダー(ts、ss、a-f)、マーク・ジョンソン(b)、ジョー・ラバーベラ(ds)

ビル・エヴァンスによってワナーに吹き込まれた最後のスタジオ録音音源である。亡き兄のハリーに捧げられたタイトル曲は、心に染み入るソロ・プレイ。中心をなすのはクイン・テトによる演奏で、最晩年のエヴァンスの伴侶と似たマーク・ジョンソン、ジョー・ラバーベラが参加しているのも注目される。これが初演となったオリジナル(ビルズ・ビット・チューン)の、メランコリーをいっぱいたたえた表情も忘れられない。

切ない音色で知られるハーモニカの名手との共演が話題を集めた晩年の人氣盤。

WPCR-29252 [WARNER.BROS.]

ビル・エヴァンス 『アフィニティ』

- ①きみの愛のために ②スノー・ピーズ ③願いのすてて
- ④酒とバラの日々 ⑤ジーザス・ラスト・パラード ⑥トマト・キッス ⑦真夜中の向こう側(メイン・テーマ)
- ⑧ブルー・アンド・グリーン ⑨身も心も

ビル・エヴァンス(p、el-p)、トーツ・シールマンス(hca)、ラリー・シュナイダー(ts、ss、a-f)、マーク・ジョンソン(b)、エリオット・ジグmond(ds)

ビル・エヴァンスとハーモニカ奏者トーツ・シールマンスの温かな心の交流が感じられる。ビル晩年の傑作アルバム。抒情味あふれるハーモニカとトリオによる演奏ばかりで、ビルが美しく融合して、それぞれの個性がいっそうくっきりと浮かび上がってゆく。ホール・サイモンが作った(きみの愛のために)に漂うリリシズム。ゆたかな情感をたたえた(ジーザス・ラスト・パラード)をはじめ、ロマンの香りあふれるプレイが素晴らしい。

晩年のエヴァンスを代表する傑作ライヴの続編。新旧のオリジナル中心の連曲で、耽美的な世界をじっくり堪能。ラストの「ナデーシ」は、17分を超える熟演。

WPCR-29254 [ELEKTRA/MUSICIAN]

ビル・エヴァンス 『パリ・コンサート2』

- ①リ・バーション・アイ・ニュー ②ゲイリーのテーマ
- ③レター・トゥ・エヴァン ④34スキドゥー ⑤ロウリー
- ⑥ナデーシ

ビル・エヴァンス(p)、マーク・ジョンソン(b)、ジョー・ラバーベラ(ds)

「パリ・コンサート」に続く、同日のバリでのライヴ・ステージ。こちらのほうには、エヴァンスのオリジナルばかり6曲が収められている。エヴァンスがもっとも気に入っていたという晩年のメンバーによるトリオ演奏。どの曲も再演のレベルをはるかに超えた、みずみずしいプレイを聴かせてくれるのが印象にのこる。代表的なレパートリーのひとつ(ナデーシ)の17分にもおよび自由なヴァージョンがハイライトになっている。

生涯3度目の多重録音企画。曲によって、ファンダー・ローズを弾くなど、新たな境地を切り開いた移籍第1弾。

WPCR-29256 [WARNER BROS.]

ビル・エヴァンス 『未知との対話—独白・対話—そして鼎談』

- ①ソング・フォー・ヘレン ②ノーバディ・エルズ・パット・ミー
- ③マキシム ④フォー・ネット ⑤アイ・ラヴ・マイ・ワイフ
- ⑥雨の想い出 ⑦アフター・ユー
- ⑧リフレクションズ・イン・D

ビル・エヴァンス(p、el-key)(多重録音)

70年代後半にワナーへ移籍したビル・エヴァンスが吹き込んだ、このレーベルからの第1弾。エヴァンスはソロ演奏に、さらに自身のピアノ・プレイをオーバー・ダビングしてくみしている。エレクトリック・ピアノが用いられているもの。あくまで表面の響きが出るだけで、いやがりで、いかにもヴァリアンらしいところだ。往年の名盤「自己との対話」から進化をげた、新たなビル・エヴァンスの姿がここにある。

ジャズ・ピアノを芸術にまで昇華させ、揺るがない地位を確立したキースがアトランティックに残した初リーダー作。キースの原点が凝縮されたファン必聴盤。

WPCR-29257 [VORTEX]

キース・ジャレット 『人生の二つの扉』

- ①リスボン・ストンプ ②ラヴ No.1 ③ラヴ No.2
- ④エヴリシング・アイ・ラヴ ⑤マーゴット ⑥ロング・タイム・ゴーン ⑦人生の二つの扉
- ⑧チャーチ・ドリムス

キース・ジャレット(p)、チャーリー・ヘイデン(b)、ポール・モチャン(ds)

最高的人气ピアニストとして、いまや押しも押されぬ個性豊かな世界を築きあげているキース・ジャレット。そんなキースが21歳のときに吹き込んだ、記念すべき初リーダー・アルバムである。ヘイデン、モチャンとのトリオは、のちの「アメリカン・カルテット」の母体をなすものであると同時に、すでに後年に通じるロマン性と冒險精神が充分に発揮されているのに驚かされる。原点という位置づけを超えた、聴きごたえある一作。

キース1971年の大作作。ジョー・ミッチェルの名曲「オール・アイ・ウォント」のカヴァーも新鮮。フリーの語法や、サクセス&打楽器を大胆に取り入れ新たな可能性を追求する。

WPCR-29259 [ATLANTIC]

キース・ジャレット 『流星』

- ①曲折の人生 ②インターロード NO.3 ③スタンディング・アウトサイド
- ④生きるものの挽歌 ⑤インターロード NO.1 ⑥トラスト
- ⑦オール・アイ・ウォント ⑧君の面影 ⑨流星 ⑩インターロード NO.2 ⑪シンパシー

キース・ジャレット(p、tenor recorder、ss、steel-ds、cga)、チャーリー・ヘイデン(b、ds、steel-ds、cga)、ポール・モチャン(ds、steel-ds、cga)

キース・ジャレットが71年夏、アトランティックにおこなった膨大なレコーディングの中から、チャーリー・ヘイデン、ポール・モチャンとのトリオによる演奏ばかりを収めているアルバム。フリーなインプロヴィゼーションから、フォーク・タッチの抒情が漂う演奏まで、トリオとしても千変万化するキースのさまざまな表情を聴くことができる興味深い一作だ。パーカッションを響き強く押し出されている点にも注目したい。

誕生!と対をなす、もうひとつの名盤。おなじみのトリオにデー・レッドマンを加えたアメリカン・カルテットで新たな世界を構築したキース1971年録音の意欲作。

WPCR-29261 [ATLANTIC]

キース・ジャレット 『エル・ジュイシオ』

- ①ジブシオン・モス ②トル・ロード ③バードン・マイ・ラクス
- ④プリ・ジャジメント・アトモスフェア ⑤エル・ジュイシオ ⑥ピース・フォア・オーネット(L.V.)
- ⑦ピース・フォー・オーネット(S.V.)

キース・ジャレット(p、ss、fl)、デー・レッドマン(ts)、チャーリー・ヘイデン(b)、ポール・モチャン(ds)

70年代のジャズ・シーンを疾走していた、キース・ジャレットの“アメリカン・カルテット”。そのもっとも初期に吹き込まれた演奏に、このあとに展開されるキースの音楽的冒險の方向性が、はっきり示されている。ゴスペル・ライクな(ジブシオン・モス)、フリーでパーカッション(エル・ジュイシオ)の熱狂、オーネットに捧げられた(ピース・フォー・オーネット)でキースが吹くソプラノ・サクセス・ブレイム、とても興味深い。

ご存じチック・コリアが輝々たる顔ぶれで録音した記念すべきデビュー・アルバム。若き新主流派ピアニストとしての才能を遺憾なく発揮。

WPCR-29263 [VORTEX]

チック・コリア 『トーンズ・フォー・ジョーンズ・ボーンズ』

- ①ライザ ②ジス・イズ・ニュー ③トーンズ・フォー・ジョーンズ・ボーンズ
- ④ストレイト・アップ・アンド・ダウン

チック・コリア(p)、ジョー・ファレル(ts、fl)、ワディ・ショウ(tp)、スティーヴ・スワウ(f)、ジョー・チェンバース(ds)

チック・コリアが25歳のとときに吹き込んだ、記念すべき初リーダー・アルバム。チックが妻に捧げて書いたタイトル曲を筆頭にして、すべての演奏にモダンでフレッシュな感覚が溢れている。ジョー・ファレル、ワディ・ショウをはじめとするメンバーたちのハード・ドライブ・ライヴなソロも聴者をも、パワの音突き破って、未知の表現世界へと進んでゆくチックのグループの演奏が、いまなお鮮烈な感動を呼び起こす一作である。

チャールズ・ロイド・カルテットでの新鮮な響きで注目を集めた新鋭ピアニストによる永遠のロングセラー。軽やかなフォーク・ロック路線のピアノトリオ。

WPCR-29258 [VORTEX]

キース・ジャレット・トリオ 『サムホエア・ピフォア』

- ①マイ・バック・ベイジ ②プリティ・バラッド ③ムーヴィング・スーン
- ④サムホエア・ピフォア ⑤ニュー・ラグ ⑥モモン・フォー・ティアーズ
- ⑦ハット・オーヴァー ⑧君に捧ぐ ⑨オール・ラヴ

キース・ジャレット(p)、チャーリー・ヘイデン(b)、ポール・モチャン(ds)

60年代の後半、時代の空気をいっばいに吸収しながら自身の表現を確立していったキース・ジャレット。繊細な中にも冒險心をいっばいに燃やせるキースのプレイの魅力が、「シエラ・マン・ホール」でのステージを収録した本作によく捉えられている。ポプ・テイランの名作(マイ・バック・ベイジ)や、アルバム・タイトル曲に漂うほのかな抒情。大膽な(ムーヴィング・スーン)。今日のキースの音楽の原点がここにある。

トリオの「流星」、カルテットの「エル・ジュイシオ」と同時期、1971年7月のマラソン・セッションで生まれた傑作。アメリカン・カルテットで新たな世界を模索した名盤。

WPCR-29260 [ATLANTIC]

キース・ジャレット 『誕生』

- ①誕生 ②モーゲイジョン・マイ・ソウル
- ③スピリット ④マーキングス ⑤フォーゲット・ユア・メモリーズ
- ⑥リモーゼ

キース・ジャレット(p、ss、steel-ds、recorder、vo、banjo)、デー・レッドマン(ts、Chinese musette、bells、vo、perc、cl)、チャーリー・ヘイデン(b、cga、clappers、steel-ds)、ポール・モチャン(ds、steel-ds、bells、miscellaneous perc)

71年夏のキース・ジャレットのセッションから、ヘイデン、モチャンにサクセス(クラリネット)のデー・レッドマンを加えた演奏を取り入れた。道徳“アメリカン・カルテット”と呼ばれることになる4人のメンバーによるプレイ。全6曲がキースのオリジナルで占められていて、エレクトリック・インストからの影響を感じさせる(モーゲイジョン・マイ・ソウル)をはじめ、キースならではの多彩なバンド・カラーが耳にできる。

現代ジャズ界の巨匠2人がまだ初々しい若者だった頃の共演盤。60年代、前衛ジャズの洗礼を受けた彼らはロックやカントリーとの融合をめざし、ここに聴かれる斬新なポップ・サウンドの創出に成功した。

WPCR-29262 [ATLANTIC]

キース・ジャレット&ゲイリー・パートン

- ①グロウ・ユア・オーウン ②ムーンチャイルド
- ③イン・ユア・クワイエット・ブレイス ④コモ・エン・ペトナム
- ④フォーチュン・スマイルズ ⑤ザ・レイヴン・スピークス

キース・ジャレット(p、el-p、ss)、ゲイリー・パートン(vib)、サム・ブラウン(g)、スティーヴ・スワウ(b)、ビル・クッドフイン(ds)

ゲイリー・パートンとキース・ジャレット。冒險心を持ちながらも、本質的にはロマンティストであるふたつ個性が見事な融合と、目撃できる素晴らしいパフォーマンス。とくに「ムーンチャイルド/イン・ユア・クワイエット・ブレイス」は、どこまでも限りなくロマンが広がってゆくような美しい演奏。この曲をはじめ、すべてのトラックが豊か過ぎるものばかりで、彼らのナイフな音楽性にたっぷり浸ることができる。

1971年7月のニュー・ポート・ジャズ祭に出演した際に収録されたライヴ名盤。ロック全盛の時代。ジャズ・ミュージシャンの気概をもって信念を貫き通したエキサイティングな演奏が痛快。

WPCR-29264 [ATLANTIC]

デイヴ・ブルーベック 『ザ・ラスト・セツト・アット・ニュー・ポート』

- ①ノーマン・オコナー神父による紹介
- ②ブルース・フォー・ニューポート
- ③テイク・ファイヴ
- ④オーブン・ザ・ゲイツ(アウト・オブ・ザ・ウェイ・オブ・ザ・ピブル)

デイヴ・ブルーベック(p)、ジェリー・マリガン(bs)、ジャック・シックス(b)、アラ・ドーン(ds)

ジェリー・マリガンを迎えたデイヴ・ブルーベック・カルテットが71年、「ニュー・ポート・ジャズ・フェスティバル」で繰りひろげた白熱のステージ。この直後に会場に入れなかった客が、樽を破って乱入。フェスティバルは即中止にせざるを得ず、ニュー・ポートでの開催は不可能になってしまった。そんな異常な空気のなかで繰りひろげられた大熱演。ニュー・ポート・フェスの歴史の最後を飾った貴重なドキュメントでもある。

コニッツやブラクストンの珍しい共演が話題を集めた、70年代を代表する人気盤。後半のスタンダード・メドレーも必聴。

WPCR-29265 **[ATLANTIC]**
デイヴ・ブルーベック『オール・ザ・シングス・ウィ・アー』

① ライク・サムワン・イン・ラヴ ② イン・ユア・オン・スウィートウェイ ③ オール・ザ・シングス・ユー・アー ④ ジミー・ヴァン・ビューゼン・メドレー-1a. ディープ・イン・アドリウム~b. ライク・サムワン・イン・ラヴ~c. ヒアズ・ザット・レイニー・デイ~d. ホルカド・ツ・アランド・ムーン・ヒムズ~e. イット・クッド・ハブ・トウ・キュー ⑤ ドント・ゲット・アラウンド・マツ・チ・エモア

デイヴ・ブルーベック (g)、リー・コニッツ (as [1][2]), アン・ルー・ブラクストン (as [2][3])、ジャック・シックス (b [1][4]), ロイ・ヘインズ (ds [3][4])、フランク・ロビンソン (ds [4])
【録音】1973年7月17日 ニューヨーク [1][2][3][4] 1974年10月3日 ニューヨーク

ブルーベックとブルーベックとブルーベックのコンビを解散したあと、デイヴ・ブルーベックがアルトのリー・コニッツやアン・ルー・ブラクストンと演奏して吹き込んだ興味深いアルバム。クール派のコニッツはもとより、前衛派のブラクストンを迎えたい(イン・ユア・オン・スウィート・ウェイ) (オール・ザ・シングス・ユー・アー)は、ファンならずとも聴き逃せない。トリオによる(ジミー・ヴァン・ビューゼン・メドレー)も美しい。

アトランティックにおける記念すべきデビュー・アルバム。アントニオ・カルロス・ジョビンのサポートも得て、奏でられるボサ・ノヴァの楽曲。ピアニストとしての力量が十二分に発揮され、その才能を広く知らしめた1966年作品。

WPCR-29267 **[ATLANTIC]**
セルジオ・メンデス『スウィング・フロム・リコ・アフィリ・チャリンゲ・アントニオ・カルロス・ジョビン』

① マリア・モイタ ② サンビーニャ・ボサ・ノヴァ / パチータ・ヂ・フェレンツ ④ ヴ・ダン・サンバ / ハウ・ブラジル ⑥ イバナベルの娘 / ⑦ 無意味な風景 ⑧ 夢見る人 ⑨ プリマヴェラ / ⑩ コン・ラジョン ⑪ ファヴェーラ

セルジオ・メンデス (g)、フィル・ウッズ (as [1][2]), アー・フーマー (fm [2][3]), ヒューバート・ローズ (tr [3][4]), アントニオ・カルロス・ジョビン (g [1][2][4][3][4]), チェオ・ネト (b), チョテウネン (ds)
【録音】 [2][3][4] 1964年12月7日 ニューヨーク [1][3][4] 1964年12月9日 ニューヨーク [1][3][4] 1964年12月9日 1964年12月9日 ニューヨーク

“ブラジル66”を率いて(マシュ・ケナダ)の大ヒットを放つセルジオ・メンデス。その2年前に吹き込まれた本アルバムでは、メンデスがジャズ的なセンスをもったピアニストとしての個性を十二分に発揮して、スマートなタッチを披露している。アメリカ側からフィル・ウッズやアート・フーマーからも参加、8曲にカルロス・ジョビンが参加してギターを弾いている。大ブレイクを目にしたメンデスのビュアな姿が耳にできる傑作。

ロックやカントリーと、ジャズを融合させた電化サウンドを打ち出したゲイリー・パートンのアトランティック音籍第1弾。電気ヴァイオリンや多層録音を駆使し、ポップでスピリチュアリティを帯びる。

WPCR-29269 **[ATLANTIC]**
ゲイリー・パートン『鼓動』

① ヘニガ・フラッツ ② ターン・オブ・ザ・センチュリー ③ チキンス ④ アライズ、ハー・アイズ ⑤ プラム・タイム ⑥ 鼓動 ⑦ ドウワン・ザ・ピッツ / ⑧ トリプル・ポートレイト ⑨ サム・エコース

ゲイリー・パートン (vb、p、el-p)、ジェリー・ハーン (g)、リチャード・グリーン (el-vin)、ステイヴ・スワロウ (b、el-b)、ビル・クッドウィン (ds)
【録音】1969年6月2日、3日、5日 ニューヨーク

ジャズ、ロック、フォークと、あらゆる音楽に興味を持っていたパートンが69年、アトランティックと契約を結んで吹き込んだ第1弾。タイトル曲(鼓動)(Throb)は、斬新な作風で知られるマイル・ギブスが書いた抒情美あふれるナンバー。この曲をはじめ、ギブスのオリジナルが4曲とステイヴ・スワロウの作品が2曲。若きパートンのナイーブな感性と大胆な冒険スピリットが混然一体になって、陶酔の世界へと誘ってくる。

ジャズ・ヴァイプの名手パートンが、ピアノやオルガンも駆使して壮大な演奏を繰り広げた名盤。1971年のモンテ・ルー・ジャズ祭でのライブ録音とスタジオ録音をカプリング。

WPCR-29271 **[ATLANTIC]**
ゲイリー・パートン『アローン・アット・ラスト』

① ムーンチャイルド / イン・ユア・クワイエット・プレイス ② グリーン・マウンテンズ / アライズ、ハー・アイズ ③ サンセット・ベル ④ ハンド・バグとグランド・ラガス ⑤ ハロウ、ホリナス / ⑥ モジョ將軍の戦略 / ⑦ ノー・モア・ブルース

ゲイリー・パートン (vb、org、p、el-p)
【録音】1971年6月19日 モンテ・ルー・ジャズ・フェスティヴァルでのライブ / 1971年9月7日 ニューヨーク、アトランティック・レコーディング・スタジオ

ゲイリー・パートンが演じるヴァイブラフォンによる(ロ・パフォーマンス、71年の“モントルー・ジャズ・フェスティヴァル”のステージからの3曲と、スタジオで自身のキーボードをオーヴァーディングした演奏が4曲、キース・ジャレットによる7つ書かれた(ムーンチャイルド〜ユア・クワイエット・プレイス)と、ステイヴ・スワロウの(ハロウ、ホリナス)など、4本マレットを駆使した美しい響きから隠れないロマンが広がってゆく。

1967年にカルテットを解散したブルーベックが、デズモンドと5年ぶりの再会を果たした1972年のライブ名盤。人気曲「テイク・ファイヴ」は15分を超える熱演。

WPCR-29266 **[ATLANTIC]**
デイヴ・ブルーベック〜ジェリー・マリガン〜ポール・デズモンド『ウイアー・オール・ザ・シングス・ア・ゲイン・フォー・ザ・ファーストタイム』

① 真実 ② アンフィニッシュド・ウーマン ③ コトソング ④ テイク・ファイヴ ⑤ ロッセルダム・ブルース ⑥ スウィート・ジョージ・ア・フラン

デイヴ・ブルーベック (g)、ポール・デズモンド (as [1][2]), ジェリー・マリガン (bs [1][2][3]), ジャック・シックス (b [1][4]), アランド・ムーン (as [1][2])
【録音】 [1][2] 1972年10月26日 フランス、パリ [オリビア劇場]でのライブ [3][4] 1972年10月28日 オランダ、ロッテルダム [テド・レーヴ]でのライブ [1][2][3][4] 1972年11月4日 トリップ・ヘンデル [ワイルド・モニー]でのライブ

ジョージ・ウェインの肝入りで72年、デイヴ・ブルーベックのもとに再結集したデズモンドとマリガン。豪華な顔ぶれがおこなわれたヨーロッパツアーのステージでの演奏を収めている。さすが大ベテランだけあって、デズモンドもマリガンもそれぞれのペースで十分に実力を発揮、余給さ感してさせるプレイが、とても心地よい。ブルーベック作(真実)の自由な展開、15分を越す(テイク・ファイヴ)など、充実のライブの様相が耳にできる。

ボサ・ノヴァの理想型といわれた人気ユニットが1964年、サンフランシスコのナイトクラブに出演した際のライブを収録した貴重盤。名歌手ワンダ・ジャ・サーを含むこのユニットは翌年解散、生のステージを記録したのは本作のみ。

WPCR-29268 **[ATLANTIC]**
セルジオ・メンデス&ブラジル66『エル・マダール〜セルジオ・メンデス&ブラジル66』

① 折り ② 丘 ③ 宇宙飛行士のサンバ ④ 私を哀れんでおくれ ⑤ ジョナール ⑥ ヴェルジのサンバ / ア・ノア ⑧ 黒いオルフェのメドレー [a] カニバルの朝~b) オルフェのハトゥーキ~c) オルフェのサンバ~d) フェリダージ ⑨ ⑨ 地引き網 ⑩ 戻ってこない ⑪ ⑪ 家路

セルジオ・メンデス&ブラジル66:セルジオ・メンデス (g)、セイス・チヤン・ネト (b)、パウロ・ニコマジーリス (perc)、チコ・パテラ (ds) ロジーニョ・ジ・ヴァレンサ (g)、ワンダ・ジャ・サー (vtr)
【録音】1964年12月10日 サンフランシスコ [エル・マダール]でのライブ

“ブラジル66”で大ブレイクするセルジオ・メンデスが、その後にサンフランシスコのクラブ“エル・マダール”で練りひろげたお洒落なステージ。派手ではないものの“いれ若きボサ・ノヴァ”というべき、洗練された演奏ぶりを耳にすることができる。(黒いオルフェのメドレー)をはじめとする人気曲を収録、ピアノ、ギター、ヴォーカルにリズムと美しいシンプルを編成によって奏でられる音楽は、まさにボサ・ノヴァのエッセンスそのものだ。

歪みの効いたギターやロックやファンクのビートを大胆に取り入れたゲイリー・パートン1969年の意欲作。きたるべきフュージョン・クロスオーバー時代の到来を予言したようなサウンドはいまなお新鮮。

WPCR-29270 **[ATLANTIC]**
ゲイリー・パートン『グッド・ヴァイブス』

① ヴィブラフィン・ガウ ② ラス・ヴェガス・タンゴ ③ ポスト・マンリン ④ ベン・イン・マイ・ハート ⑤ リロイ・ザ・マジック ⑥ アイ・ニューヴァー・ラヴド・ア・マン (ザ・ウェイ・アイ・ラヴ・ユー)

ゲイリー・パートン (vb、el-vb)、サム・ブラウン (g)、ジェリー・ハーン (g)、エリック・クワイ (g)、リチャード・テュー (p、org)、ステイヴ・スワロウ (b、el-b)、チャック・ライナー (el-b)、ビル・ワオルグ・グレイ (ds、perc)、バーニー・ドリヴァティ (dr、ds、perc)
【録音】1969年9月2日、3日、4日 / 1970年3月11日

ロック・ミュージックへも大胆なアプローチをみせていったゲイリー・パートン。そんな彼のアグレッシヴな方向性が、3人のギタリストを従えたこのアルバムにはよく表れている。サイケデリックなムードをもつ(ヴィブラフィン・ガウ)と、り響るリズムックなソリの(ポスト・マンリン)といったオリジナルも美しいが、最大の聴きものは、ケル・エヴァンスの名作(ラス・ヴェガス・タンゴ)の、ゲイリー・パートン・ヴァージョンだ。

1971年6月の来日時にサンケイホールで開催された深夜のコンサートの模様を収録した日本のみで流通した幻のライブ。

WPCR-29272 **[ATLANTIC]**
ゲイリー・パートン『ライヴ・イントロキョウ』

① パレー / ② 第3の日 ③ サンセット・ベル / ④ グリーン・マウンテン / ⑤ アフリカ・フラーウ / ⑥ ポーツマスの情景

ゲイリー・パートン (vb)、サム・ブラウン (g)、トニー・レヴァン (el-b)、ビル・クッドウィン (ds)
【録音】1971年6月12日 東京 [サンケイホール]でのライブ

自身のバンドを率いての2度目の来日となるゲイリー・パートン。71年6月の東京サンケイホールでのコンサートの模様を収めている。ベースにトニー・レヴィンが参加した新しいカルテット、マイル・ギブスがプレイヤー(第三の日)などのほか、テューク・エリントン作(アフリカン・フラーウ)のラテン・ロック風アレンジが面白い。わが国のみでリリースされた、ゲイリー・パートンの貴重なアルバムである。

アトランティックの人気ヴァイプ奏者パートンと、ジャズゴビの共演でも知られるジャズ・ヴァイオリンの最高峰グラッペリとの邂逅を捉えた人気盤。クラッペリの披露もあり、パートンにとっては異郷の地のハリエで、洗練された味わい深い演奏をたっぷり聴かせる。

WPCR-29273 **[ATLANTIC]**
ゲイリー・パートン&ステファン・グラッペリ『パリのめぐり逢い』

① ダネ / ② ブルー・イン・グリーン / ③ フォーリン・グ・グレイス / ④ ヒアズ・ザット・レイニー・デイ / ⑤ コケット / ⑥ スウィート・レイ / ⑦ 夜は千の眼をもつ / ⑧ アルバム / ⑨ アイダーダウン

ゲイリー・パートン (vb)、ステファン・グラッペリ (vin)、ステイヴ・スワロウ (el-b)、ロッド・ワウド (frs)
【録音】1969年11月4日 フランス、パリ

ゲイリー・パートンのバンドがパリを訪れた際に、同地のベテラン・ヴァイオリン奏者、ステファン・グラッペリと共演した、心温まる美しいアルバム。世代も年齢も離れているとはいえ、お互いの音楽を敬愛し合うふたりは一瞬にして意気投合。まさに一体になって、素晴らしいサウンドが生み出されている。(スウィート・レイ)などから立ち始める抒情とともに、ロマンの響りをいっぱいに含んだ(ブルー・イン・グリーン)の美しい響きも強く印象にのこる。

ミルト・ジャクソンに通じるブルース・フィリングと、カミソリのような切れ味を誇るロイ・エアーズの最高傑作。ハービー・ハンコックの参加も貴重。

WPCR-29275 **[ATLANTIC]**
ロイ・エアーズ『ダディ・バグ』

① ダディ・バグ / ② ボニータ ③ ジス・ガイズ・イン・ラヴ・ウィズ・ユー / ④ アイ・ラヴ・ユー・ミッシェル / ⑤ ショツウズ / ⑥ エミー / ⑦ ルック・トゥ・ザ・スカイ / ⑧ ヲツ・クッド・オンリー・ハブン・ウィズ・ユー

ロイ・エアーズ (vb)、ヒューバート・ローズ (tr)、ハービー・ハンコック (p)、ジョニー・シャワー・グレイ (g)、ロン・カーター (b)、ミン・ジャー・ワリアス (b)、ミック・モルター (ds)、フレッド・エイツ (ds)、ブルーノ・カー (ds)、ウィリアム・フィッシャー (arr)
【録音】1969年3月11日、5月12日 ニューヨーク

60年代にジャズ・ヴァイプの世界に新风を送り込んでいったロイ・エアーズ。そんなエアーズによる、コンテンポラリーな時代感覚あふれる一作である。エアーズとハービー・ハンコックを中心にしたカルテットを軸に、弦や木管楽器のアンプ・サンブルが、いっそうカラフルな色彩を加えてゆく。アントニオ・カルロス・ジョビンやパートン・バカラウ、ローナ・ニロなど、モダンなポップ曲を中心にエアーズが斬新な響きで聴かせている。

ソウルフルなプレイで一世を風靡したアトランティックの看板アーティスト2人による夢の共演。ミルトのブルースを題材に、両者による魂の交歓はまさに感動的な。

WPCR-29277 **[ATLANTIC]**
ミルト・ジャクソン&レイ・チャールズ『ソウル・ブラザーズ』

① ソウル・ブラザーズ / ② ハウ・ロング・ブルース / ③ コスミック・レイ / ④ ブルー・ファンク / ⑤ デイード・アイ・ドゥ

ミルト・ジャクソン (vb [2][3][4]、p [1][2]、g)、レイ・チャールズ (p [2][3][4]、as [1][2])、ビル・ロウチル (ts)、スキーター・ベグ (g)、オスカー・ベティフォード (b)、コニー・レイ (ds)
【録音】1957年9月12日 ニューヨーク

「ソウル・ミーティング」に対してミルト・ジャクソンとレイ・チャールズの共演盤、ブルーゼとミルト・ジャクソンに対して、レイもファンキーな魅力をいっばいにふりまいてゆく。曲によってミルトが持ち替えるピアノやレイのサックスも、余技の域を超えた本格的なもの。その名の通りのミルトのオリジナル(ソウル・ブラザーズ)、ルロイ・ユーによるブルースの古典(ハウ・ロング・ブルース)をはじめ、リラックスした雰囲気よく伝わってくる演奏ばかりである。

ジョン・ルイスがガンサン・シュラーと組んで「ジャズの未来」を模索した歴史的傑作。

WPCR-29279 **[ATLANTIC]**
モダン・ジャズ・カルテット『サード・ストリーム・ミュージック』

① ダ・カーボ / ② フィーネ ③ エクスボージャー / ④ スケッチ / ⑤ 会話

[1][2]:ジョン・ルイス (p)、ミルト・ジャクソン (vb)、パーシー・ヒース (b)、コニー・レイ (ds)、ジュー・ジュ・ジョー (cl、ts)、ジム・ホール (g)、ラルフ・ベニー (b) [1] [4]:ジョン・ルイス (p、cond) [4]、ミルト・ジャクソン (vb)、パーシー・ヒース (b)、コニー・レイ (ds)、ボビー・エルドレッド (tr)、マニー・ニチヤール (bs)、マニー・ニチヤール (bassoon)、ホーランド・ホルンズ (h) [1]、カール・エル・વી올ラ)、ジュー・ジュ・ジョー (cello) [1]、ガンサン・シュラー (cond) [5] [6]:ジョン・ルイス (p)、ミルト・ジャクソン (vb)、パーシー・ヒース (b)、コニー・レイ (ds)、ビル・マサリス (tr)、ロート・ケルニ (tr)、マニー・ニチヤール (bs)、マニー・ニチヤール (bassoon)、ホーランド・ホルンズ (h) [1]、ジュー・ジュ・ジョー (cello)、パテヤマ・チエラ (harp)、ガンサン・シュラー (arr、cond)
【録音】 [1][2] 1957年6月24日 マサチューセッツ州・ルクックス [ミュージックシティ]でのライブ / [3][5] 1959年9月23日 ニューヨーク / [4] 1960年1月15日 ニューヨーク

ジャズでもクラシックでもない第3の流れ「サード・ストリーム・ミュージック」を提唱していったジョン・ルイス。そんなルイスが自身MJQとともに、意欲的なアプローチをおこなってみせたアルバムである。MJQとジュー・ジュ・ジョー3人共演による曲。そしてボザネリ・強楽四重奏団を加えてのアストラク (会話)、難解とされたこれらの演奏が、今日の耳にむしろシンプルを美しさをともって響いてくのも興味深い。

クロスオーバー・ソウル・ヴァイブ・プレイヤー! ハービー・マンとの共演やクロスオーバー〜フュージョン・シーンで崇高な音楽性を誇ったロイ・エアーズの最高傑作。

WPCR-29274 **[ATLANTIC]**
ロイ・エアーズ『ストロンド・ソウル・ピクニック』

① ローズ・フォー・シンディー / ② ストロンド・ソウル・ピクニック / ③ 波 / ④ フォー・ワンズ・イン・マイ・ライフ / ⑤ リルズ・バラダイス / ⑥ ホワット・ザ・ビー・ブル・セイ

ロイ・エアーズ (vb)、ゲイリー・パートン (as)、チール・ストロウアー (tr、fl、hr)、ヒューバート・ローズ (tr)、ハービー・ハンコック (p)、ロン・カーター (b)、ミロスラフ・ワトス (b)、グライフ・テイ (ds)
【録音】1968年6月20日

新進ヴァイプ奏者として注目をあつていった頃のエアーズがアトランティックに吹き込んだ、このレーベルからの第2作。ローナ・ニロが書いたタイトル曲をはじめ、ジョビンによるボザ・ノヴァの名曲(波)や、ステイヴ・ヴァイン・ワンダーが大ヒットさせた(フォー・ワンズ・イン・マイ・ライフ)など、幅広いアーティストがとりあげられている。カラフルなサウンドに染め上げてゆくエアーズのセンスがよく出ている傑作アルバム。

クラブDJやレア・グループ系ファンの間で絶大な支持を獲得したラテン・ジャズの奏者。西海岸出身のヴァイブラフォン奏者が50年代後半にジュビリーに現れたダンサブルな名盤。

WPCR-29276 **国内初CD化** **[JUBILEE!]**
ボビー・モンテス『ジャングルのファンタスティック!』

① アフリカン・ファンタジー ② チャンゴ ③ ジャングルのサンセット ④ コン・チキ ⑤ スウィング・グ・アット・ザ・M ⑥ スピーク・ロウ / ⑦ キャリオン ⑧ ⑧ チャ・チャ・チャ・ボール・ニュー・ロウ ⑨ サマータイム

ボビー・モンテス (vb、p)、カルロス・オルテガ・ア・フェレル (vb、p)、ジミー・バース (b)、ミゲル・グティエレス (timbales)、ルイス・ミランダ (cga)、コラ・セ不明
【録音】1958年 ロサンゼルス (推定)

西海岸を拠点に活動をおこなって、エキゾテシズムあふれるサウンドをふりまいていったヴァイプ奏者のボビー・モンテス。ここではラテン・ジャズの響きとともに、モンテスならではの Afro 回響を意識したような作品も含まれているのが聴きどころ。そんなモンテスの6曲のオリジナルのほか、さわやかな(スピーク・ロウ)(サマータイム)などもとりあげている。ジュビリー・レーベルに吹き込まれた、とてもレアな一枚である。

名盤「バラダス・ブルース」と対をなすジャクソンのミルト傑作。豪華オーケストラをバックに、瑞々しいヴァイプの音色にフォーカスを当てた人気盤。スロー・ナンパが中心で深夜のBGMとしても楽しめる。

WPCR-29278 **[ATLANTIC]**
ミルト・ジャクソン『ザ・バラード・アーティスト・オブ・ミルト・ジャクソン』

① ザ・シンダー / ② メイクン・ウービー / ③ アローン・ウー・キヤザー / ④ テンダー / ⑤ ドット・ウォリー・バド・ミー / ⑥ 雲 / ⑦ ディー・ブレイ・イン・アドリウム / ⑧ アム・ア・フルト・トゥ・ワウント・ユー ⑨ ⑨ 真夜中の太陽は沈まず / ⑩ 明日

ミルト・ジャクソン (vb)、ミルト・ジャクソン (b)、ビル・ロウ (tr)、トニー・マドノ (a、fl、fr)、ハバル・コフスキ (vin)、ジミー・ジョンス (p、arr)、ロイ・ベグ (reads)、チャック・ウェイ (el)、パー・バルトリス (g)、コニー・レイ (ds) 他 クインシー・ジョーンズ (arr、cond)
【録音】 [6][7][9][10] 1959年5月1日 ニューヨーク / [4][8] 1959年9月1日 ニューヨーク / [1][2][3] 1959年9月10日 ニューヨーク

心に染みわたるようなヴァイブラフォン上の美しい響き。タイトルどおり、ロマンティックなバラード・プレイに焦点が当てられた本アルバムに、ミルト・ジャクソンの真價が発揮されているの言うまでもない。そんなミルトのハートフルなヴァイブ・プレイを、木管楽器やストリングスを加えたヴァイブが美しく包み込み、全10曲中7曲のアレンジを、若きクインシー・ジョーンズがおこなっているのも注目しむ。

ジョン・ルイスとガンサン・シュラーが中心になって推進したサード・ストリーム・ミュージック。ドイツのオーケストラとの共演による演奏を披露した異色の名盤。

WPCR-29280 **[ATLANTIC]**
モダン・ジャズ・カルテット&オーケストラ

① アラバンド・ザ・ブルース / ② ディヴェルティメント(嬉遊曲) / ③ イングリランドのキャロル / (ジャズ・カルテット&オーケストラのための協奏曲) ④ 第1楽章 ⑤ 第2楽章 (ハッサカリア) / ⑥ 第3楽章


ジョン・ルイス (p)、ミルト・ジャクソン (vb)、パーシー・ヒース (b)、コニー・レイ (ds)、ラン・ジョー・オーケストラ、ガンサン・シュラー (cond [1][3][4][5])、ウェルナー・ハイダー (cond [2])
【録音】 [2][3] 1960年6月3日 シェットワットガルト [1][4][5] 1960年6月4日 シェットワットガルト

クラシックのオーケストラとの共演をうけて、自身の表現領域を拡大していったジョン・ルイス。そんなルイスの主宰する MJQ が、オーケストラと共演した一作である。ガンサン・シュラーが作した実験的な大作(ジャズ・カルテットとオーケストラのための協奏曲)とともに、クリス・エキールのロイ・エアーズがアレンジした(イングリランドのキャロル)の「ウィズ・ストリングス・ヴァージョン」の美しい響きが忘れられない。

スピード感溢れる圧倒的な速弾きで知られる名ピアニストが最強のリズム・セクションと共演した好内容のピアノ・トリオ名盤。

WPCR-29327 [ATLANTIC]

ジャック・ウィルソン『ザトゥー・サイズ・オブ・ジャック・ウィルソン』



1 ① ザ・シーン・イズ・グリーン ② グラス・エンクロージャー ③ グッド・タイム・ジョー ④ キンタ ⑤ ウィン・ス・アポン・ア・サマー・タイム ⑥ サム・タイム・ア・ゴ ⑦ ザ・グッド・ライフ ⑧ ジ・エンド・オブ・アラヴ・アフター

ジャック・ウィルソン (p)、リロイ・ヴィネガー (b)、フィーレ・ジョージ (ds)


【録音】1964年5月13日

新鮮なバラードを感じると、美しいピアノ・タッチを聴かせるジャック・ウィルソン。そんなウィルソンのふたつの面にスポットを当てたアルバムで、LPではA、B面にそれぞれ「ファスト・サイド・スロー・サイド」という構成になっていた。パップの伝統を引き継ぐ正統派としての個性を色濃く出している「ファスト・サイド」、ロマティックな“スロー・サイド”、どちらにもウィルソンのピアニスティックな魅力がよく発揮されている。

白人パップ・ピアノの最高峰といわれたピアニストがアトランティックに残した貴重なピアノ・トリオアルバム。

WPCR-29329 [ATLANTIC]

ジョージ・ウォーレントン『ナイト・ミュージック』



1 ① ゴッドチャイルド ② センディシティ ③ ピーズ・チューン ④ ザ・ゴーストリー・ラヴァー ⑤ アップ・ジャンプ・ザ・ディビル ⑥ イッツ・ウォール・ライト・ウィズ・ミー ⑦ ジ・エンド・オブ・アラヴ・アフター ⑧ ウィル・ユース・ディルビー・マイン ⑨ ウィン・ア・センテメンタル・ムード ⑩ ワールド・ウェアリア ⑪ ウィン・ナイト・オブ・ラヴ

ジョージ・ウォーレントン (p)、テディ・コテック (b)、ニック・スタヒラス (ds)

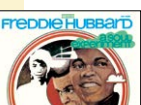
【録音】1956年9月4日、5日

ピ・パップ〜モダン・ジャズの時代に活躍した多くの白人プレイヤーたちの中において、ジョージ・ウォーレントンはとても個性豊かな忘れたいピアニストのひとつ。そんなウォーレントンが、オリジナル5曲とスタンダード・ナンバー6曲をトリオで演奏している。全盤に流れるのはかな哀愁とともに、緊張とくつろぎ、情熱と洗練、冒險心とロマンといったものが、自然な形で表出されてゆくの、じつに素晴らしい。

1993年の「新・幻」の名盤録本で紹介されたリロイ・アレン盤が有望の復刻。ソウル・ミュージックとの融合に真正面から取り組んだハードのアトランティック第3弾。クラブ・シーンで人気の「サウス・ストリート・ストロール」も収録。

WPCR-29331 [ATLANTIC]

フレディ・ハーバド『ア・ソウル・エクスピリメント』



1 ① クラフ・ユア・ハンス ② ウィチタ・ラインマン ③ サウス・ストリート・ストロール ④ ロンリー・ソウル ⑤ ノー・タイム・トゥールズ ⑥ ハング・エム・アップ ⑦ グッド・ユー・モ・マン ⑧ ミッドナイト・ソウル ⑨ ソウル・タン・アラウンド ⑩ ア・ソウル・エクスピリメント

フレディ・ハーバド (tp, flh, arr)、カルロス・ガーネット (ts)、ケニー・マinton (p)、ゲイリー・イングリッシュ (org)、エリック・ゲイル、レジーナ・バリー (g)、ジェリー・シモット (cl-b)、グランド・テイト、セージン・バーディ (ds)


【録音】①⑦⑧⑨ 1968年12月11日 ニューヨーク ⑩⑩⑫ 1968年12月13日 ニューヨーク ④⑤⑥⑬ 1969年1月21日 ニューヨーク

R&B、ソウルのフィリングをもつリズム陣を従えて、フレディ・ハーバドがノリノリでレディを聴かせている。グルヴィな雰囲気がいっぱいのタイトル曲「ア・ソウル・エクスピリメント」や「クラフ・ユア・ハンス」(ハンク・エム・アップ)、ダンスジャンルをサウンドの中で、燃えるようなフレディのドラムパットが炸裂する。シャープなフレイジングの魅力はそのままで、より大衆にフィットする企画性をもった、いかにもアトランティックらしい1枚。

フルートを抱いた渡り鳥。ボサ・ノヴァからファンク、フュージョンまで、縦横無尽に実力を見せつけた。ポップ度120%の大名盤。

WPCR-29333 [ATLANTIC]

ハービー・マン『ライト・ナウ』



1 ① ライト・ナウ ② デサフィナード ③ シャリル ④ ジャンピン・ウィズ・シンフォニー・シンド ⑤ パルキータ ⑥ クール・ヒート ⑦ カーニヴァル ⑧ メディテーション ⑨ フリー・フォー・オール

ハービー・マン (fl)、ヘイグッド・ハーディ (vib)、ビリー・ビーン (g)、ビルズレイター、トンプキン (b)、カルロス・フスター・マルデス (cga, ds)、ウレイ・ボグ (ds)、ウレイ・ロドリゲス、ジョニー・バチュカ (perc)


【録音】1962年3月12日、28日、4月19日

最高の実力をもつジャズ・フルートのトップ・スターとしての評価をほいほいと棄てたハービー・マンによって、60年代の初めに吹き込まれた楽しいアルバムである。「カミン・ホーム・ベイビー」を録音して乗りに乗って多くのバンドが演じている。ダンスバラドラン・ジャズの世界、うきうきするようなビートをまつ「ライト・ナウ」のほか、「デサフィナード」などボサ・ノヴァの名曲も多くとりあげられている。

美麗ジャカルで大人気のピアノ・トリオの重鎮盤がついに復刻。ジェローム・カーンの人気ミュージカルで取り上げられた音楽のジャズ・ヴァージョン。軽妙なタッチとソウフルなスタイル、モリス・ナントンの最高傑作。

WPCR-29328 [WARNER.BROS]

モリス・ナントン・トリオ『ロバータ』



1 ① ユアー・デヴァステイティング ② 煙が目にしみる ③ レッツ・ヒギン ④ アイ・ウォント・ダンス ⑤ ラヴリトゥ・ルック・アウト ⑥ イエスタデイズ ⑦ ザ・タッチ・オブ・ユア・ハンド

モリス・ナントン (p)、ノーマン・エッジ (b)、チャーリー・パーシップ (ds)


【録音】1958年12月12日、19日 ニューヨーク

prestigeのアルバムなどを通じてピアノ・ジャズ・ファンに秘かに愛されてきたモリス・ナントン。そんなモリスが58年のデビュー作「ラワードラム・ソング」に続いて「ワナー・ラザース」に吹き込んだトリオアルバムである。ジェローム・カーンが音楽を担当した名作「ロバータ」のナンバーばかりを演奏したもので、ミュージカルのジャズ版としても聴きどころをもった作品。かわめてレアな価値をもつ1枚である。

人気盤『バックラッシュ』に続く、若獅子ハードのアトランティック第2弾。キャプテン・ジャズ・ロック、ラテン、ブルースなど多様な構成で、ピリー・ティラーの名曲「ア・イベント」もカヴァー。

WPCR-29330 [ATLANTIC]

フレディ・ハーバド『ハイ・ブルース・プレッシャー』



1 ① キャント・レット・ハー・ゴー ② ラティナー ③ ハイ・ブルース・プレッシャー ④ ア・イベント ⑤ トゥルー・カラス ⑥ フォー・B.P.

フレディ・ハーバド (tp, flh, arr)、ベニー・モウビン (ts, fl)、ジェームス・スーポール (as, fl)、ハービー・ルイス (tb)、キヤザワディ (tb, euphonium) ①③⑩⑪、ハード・ジョンソン (tu) ⑩⑪⑩⑩⑩⑩⑩、ウェルニアン・アーヴアン (p) ①④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

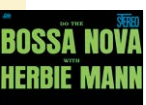
【録音】①④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

アトランティックへ移籍したフレディ・ハーバドが、名盤『バックラッシュ』に次いで放った第2弾。大半の曲をフレディが書き下ろし、曲によってはビッチェバなどを加えたアレンジもすべて自身で手がけた意欲作。リズムックなタイトル曲、ジャズ・ロック的な(キャント・レット・ハー・ゴー)、新主流派的な雰囲気をもつ(トゥルー・カラス)、組曲風の大作(フォー・B.P.)など、すべてのトラックでシャープなドラムパットが炸裂する。

2年におよぶブラジル訪問で、本場のエッセンスを吸収したマンガ、その成果をまとめたジャズ・ボサ・ノヴァの大傑作。

WPCR-29332 [ATLANTIC]

ハービー・マン『ドゥ・ザ・ボサ・ノヴァ』



1 ① イット・マスト・ビー・ラヴ ② みなくい嬢 ③ ラヴィン・ビース ④ 貴方と私 ⑤ ワン・ノート・サンバ ⑥ ブルース・ウォーク ⑦ コンソレーション ⑧ オールド・ボッサ

ハービー・マン (fl, alto, flt)、ペドロ・パウロ (tp)、ルイス・カルロス・ヴィニヤス (p)、アンドニオ・カルロス・ジョセフ (b, vo, arr, cond)、ハーデン・ハウエル (g)、パウロ・マウラ (as)、セージン・バーディ (ds)


【録音】1962年10月16日、17日、19日 リオデジャネイロ

早くからボサ・ノヴァに大きな関心を抱いていたハービー・マンが62年秋、みずからリオ・デ・ジャネイロに飛んで、現地のミュージシャンたちと共演したアルバム。まだブラジル前のセルジオ・メンドレス率いる「ボサ・リ・ウ・セクステット」などの共演や、アントニオ・カルロス・ジョビートとの曲など、聴きどころが多い。ブラジル人プレイヤーと同じ気持ちでボサ・ノヴァに同化し、華麗にフルートを吹きまくるマンガじつに素晴らしい。

ジャズ・ドラムの名手ローチがリーダーとなった異色トリオ名盤。伝説のハサーンもセロニアス・モンクを思わせる鬼才ぶりを存分に発揮。

WPCR-29334 [ATLANTIC]

マックス・ローチ・トリオ『フィーチャリング・ハサーン』



1 ① スリー・フォー・vs シックス・エイト・フォー・フォー・ウェイズ ② オフ・マイ・バック・ジャック ③ ホープ・ソール・エルム ④ オール・モスト・ライク・ミー ⑤ ディン・カーストリート ⑥ ベイ・ノット・ブレイ・ノット ⑦ トゥ・インスクライブ *MONO

マックス・ローチ (ds)、ハサーン・イワンアリ (p)、アート・デイビス (b)

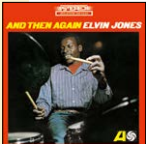
【録音】1964年12月4日、7日

フィラデルフィア出身の‘幻’のピアニスト、ハサーン・イヴァン・アリを全面的にフィーチャーした、マックス・ローチのリーダー作。ローチのドラミングも素晴らしいが、内容はハサーン・トリオといった格様を呈している。演奏されるのもハサーンのアリがオリジナルばかりで、モンク・ハービー・ニコルスのラインを思わせる「バックラッシュ」や「フィーチャリング」が、じつに衝撃的だ。ハサーンのユニークなプレイが聴ける唯一といつてもよい作品。

エルヴィンがメル・バリストンの編曲・指揮による3管アンサンブルを従えたハード・バップに根ざした人気盤。豪華メンバーが参加したことでもキリと引き締まった意欲作。

WPCR-29335 [ATLANTIC]

エルヴィン・ジョーンズ『アンド・ゼン・アゲイン』



1 ① アザーン ② オール・デリバレイト・スピード ③ エルヴィン・エルバス ④ スーン・アフター ⑤ フォー・エヴァー・サマー ⑥ レン・シラー ⑦ アンド・ゼン・アゲイン

エルヴィン・ジョーンズ (ds)、フランク・ウェス (fl, ts) ①④⑥⑦、チャールズ・テイクス (bs) ①④⑥、サド・ジョンソン (cnt)、J.J.ジョンソン (tb) ①④⑥、ド・フリードリフ (p) ①④⑥⑦、ハルク・ジョーンズ (p) ②③⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿


【録音】①④⑥⑦ 1965年2月16日 ニューヨーク ②③⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1965年3月18日 ニューヨーク

ジョン・コルトレーンのグループで怒涛のドラミングを繰りひろげたエルヴィンが、ソロにバッキングに、とバラソンの良いイレを聴かせた人々。メル・バリストンがアレンジと指揮を担当、賛美で参加したJ.J.ジョンソンをはじめ、ハンクやサドといったジョーンズ兄弟も参加。ドラム・ゴングやバリトン・サクスを加えた編成で、重厚なアンサンブルとでソロ・プレイに適度にサポートしながらもワイルドな個性を押し出してゆく。

1958年にニューヨークを離れ、コロラドに移ったミスが地元ミュージシャンと共演、個人宅で収録した1964年の貴重な、哀愁溢れる「サタンズ・ドル」は、色褪せない名曲として多くの人の記憶にも今も残る。

WPCR-29337 [ROOST]

ジョニー・スミス『レミニシング』



1 ① スーン ② ゼアル・ビー・アザー・タイムズ ③ サテン・ドル ④ アイム・アールド・ファッションド ⑤ アイ・リターン・パー・ユー ⑥ フィッツ ⑦ リトル・ダーリン ⑧ タイム・アフター・タイム ⑨ ユー・アー・リットル・ビューティフル ⑩ スウィート・アンド・ラヴリー

ジョニー・スミス (g)、ボブ・グリーン (p)、ビル・バスチヤン (b)、テレル・ゴース (ds)


【録音】1964年頃 コロラド州モントークスプリングス

10数年にわたってリリースに多くのアルバムを吹き込み、ヒット作も送り出してきただきたリソのジョニー・スミス。そんな彼のラストからの最後の作品になったのが、64年の「レミニシング」である。タイトル・ホームを雰囲風の中で演じられた(スーン)や「サテン・ドル」(タイム・アフター・タイム)をはじめとする名スタンダード・ナンバーの数々。くつろいだカルテット編成で、スミスの至善が味わえる一枚になっている。

ウデ・ハーリン楽団のフォー・ブラザーズを思わせる軽妙なアンサンブル。アレキサンダーとしても活躍したレスター・派ターの名手が残した唯一のリーダー作。

WPCR-29339 [JUBILEE]

マーティ・ホームズ『アート・フォース・パーティー・フォー・マーティ』



1 ① ダートのジレンマ ② サム・ワント・ウ・ウッチ・オーヴァー・ミー ③ ベーパー・ボット ④ アイ・ゲット・アロウ・グッド・ウィズ・アウト・ユー・ヴェリリー・ウェル ⑤ ラヴ・ウォーク・イン ⑥ パーティー・フォー・マーティ ⑦ ウァー・モント月の月 ⑧ フォア・オブ・ザーズ ⑨ メイ・ビース・ア ⑩ タイト・ソフ・ア・ヴェルズ ⑪ ウィズ・セア・ア・コールド・フォー・ミー ⑫ クラス・マクジマス

マーティ・ホームズ (ts, arr, arr)


【録音】1958年ニューヨーク

レスター・ヤング系のスムーズなフレイジングが魅力のテナー・サクソ奏者、マーティ・ホームズがジュビリーに吹き込んだ、とてもレアな一枚。ニューヨークで人気ジャズ番組をもっていたアート・フォアの肝心の制作されたもので、ウェスト・コースト風のサクソ・アンサンブルとともに、マーティの魅力的なソロが大きくフィーチャーされている。(サム・ワント・ウ・ウッチ・オーヴァー・ミー)をはじめとするクールなバラド表現も、じつに味わい深い。

ベッパードと共演で知られる名アレンジャーを取り組んだ時代色が出たポップなビッグ・バンド、ハンコックからM・ジョンソン、ビートルズまで当時のヒット曲を幅広くカヴァー。

WPCR-29341 [REPRISE]

マーティ・ペイチ『ロック・ジャズ・インシデント』



1 ① プロミス・ハー・エニシング ② ガッター・マン ③ よくあることさ ④ ウォーター・メロニー・ゴ ⑤ ブラウド・キヤメル ⑥ サマー・タイム ⑦ ザ・キャット ⑧ ホワット・ノウ・マイ・ラヴ ⑨ ザ・シン ⑩ イエスタデイ ⑪ コール・ミー

アレンジ: 指揮:マーティ・ペイチ、プロデュース:ジミー・ボウエン、メンバー:不詳


【録音】1966年 ロサンゼルス

「踊り子」と“お風呂”に続く、もう一枚のマーティ・ペイチの美ジャズ曲。当時のペイチは西海岸でもっとも売れたい売れたいアーティストだった。そんなペイチが60年代前半のヒット曲に、自作曲をもたえて、美しいサウンドを聴かせたのが本アルバムである。ハービー・ Hancock の(ウォーター・メロニー・ゴ)、ジミー・スミスの(ザ・キャット)などもカヴァー。60年代という時代の雰囲気を手軽に味わえるおポップ=ジャズ的作品。

ラストでのジョニー・スミス作品中、もっともユニークな1枚。サンフランシスコのチャイナタウンを舞台にしたハード・ウエイ・ミュージカル「ロヴァース&ハートズ・アゲイン」の名コンビによる1958年初演のミュージカルの音楽。ギター・トリオにチェロを加えたカルテットの美しい演奏を聴かせる。

WPCR-29336 [ROOST]

ジョニー・スミス『フラワー・ドラム・ソング』



1 ① ユー・アー・ビューティフル ② アイ・エンジョイ・ビーイング・ア・ガール ③ サンディ ④ ア・ハン・ドレド・ミリオニ・ミラクルズ ⑤ グラント・アヴェニュー ⑥ ラヴ・トゥル・アウエ ⑦ ライク・ア・ゴッド ⑧ フィナーレ

ジョニー・スミス (g)、キヤール・マクラッケン (cello)、ジョー・ジューマン (b)、マウジー・アレキサンダー (ds)


【録音】1958年 ニューヨーク(推定)

リチャード・ロジャースとオスカー・ハマースタインが音楽を担当した、58年ブロードウェイのヒット・ミュージカルのナンバーを、ジョニー・スミスのカルテットが演奏している。ピアノの代わりにチェロのキヤール・マクラッケンを加えたカルテットによる演奏、いくつかのジャズ・アレンジが生まれた「フラワー・ドラム・ソング」でもあるものの、これは全編スミスの個性に彩られたジャズ版ミュージカルの秀作になっている。

ご存じマンシーニが手がけた「映画音楽」の傑作。そのジャズ化に取り組んだ、軽妙さが魅力の好アルバム。

WPCR-29338 [REPRISE]

パーニー・ケッセル『ティファニーで朝食を』



1 ① ムーン・リヴァー ② かわいそうな猫ちゃん ③ サリーのトマト ④ 芸術写真家ニヨシ先生 ⑤ 大手入れ ⑥ 夜のキャバレーで ⑦ ティファニーで朝食を ⑧ ラテン・ゴッドリッド ⑨ ホリデーの気持 ⑩ ルー・キャブス ⑪ かつぱいのスリル ⑫ ムーン・リヴァー・チャチャ

パーニー・ケッセル (g)、ビル・バスチヤン (as, fl)、ポール・ホーン (saxes, pvc)、ウイグナー・エドモンド (vib, marimba)、チック・パーク・ホーファー (b)、アルバー・マン (ds)


【録音】1962年1月23日、25日 ロサンゼルス

オードリー・ヘップバーン主演の61年の映画「ティファニーで朝食を」のメロディーを、人気ギタリストのパーニー・ケッセルがジャズ化したリリース盤。ケッセルは通常のギターだけでなく、ハンジューやベース・ギター、それに12弦ギターなどを曲によって弾き分ける。ウイグナー・エドモンドら、西海岸のトップ・プレイヤーたちの好サポートとともに、ヘンリー・マンシーニの名作を小粋なジャズ・サウンドで楽しむことができる。

サイ・オリヴァーのオーケストラをバックに、漂白したロンポーをフィーチャー。さらに混成コーラスとの組み合わせも楽しいタイリ・グレンの異色作。

WPCR-29340 [ROULETTE]

タイリ・グレン『トロン・グレン・アーティスト・アルバム』



1 ① ラヴ・ミー・オー・ア・リーヴ・ミー ② サマー・タイム ③ ビギン・ザ・ヒギン ④ ドリム・オブ・ユー ⑤ ミーン・トゥ・ミー ⑥ セント・メリー・リバー ⑦ ドゥ・ウ・ウ・ウ ⑧ 降って来ても晴れても ⑨ サルトリ・セレント ⑩ アイ・ザ・アインランド・ディア ⑪ ゲット・アウト・オブ・タウン ⑫ アイドント・ノウ・ホワイ

タイリ・グレン (tb, vib)、サイ・オリヴァー (dir)、オーケストラ、ザ・リヴィン・クラウン・ガーズ (chorus)


【録音】1962年 ニューヨーク

デューク・エリントン楽団やルイ・アームストロング・オールスターズなどでも活躍したトロンボ奏者、タイリ・グレンのルーレット・レーベルからの最後の作品。サイ・オリヴァーのアレンジによる「ブルース」と「リアリティー」を「オースティン」のコーラスをバックに、(サマー・タイム)「アイ・ザ・アインランド・ディア」をはじめとする名曲を温かく吹き綴っている。大ベテランならではの風格をよく感じることできる一枚である。

ゴー・ジャズなオーケストラをバックに、モダン・ジャズ黄金期の名曲も当時のヒット曲。ジャズの有名スタンダードなどを歌った60年代初頭の快作。

WPCR-29342 [ATLANTIC]

メル・トーマー『カミン・ホーム・ベイビー』



1 ① カミン・ホーム・ベイビー ② ダット・デア ③ ガレディ・イン・ラヴ・ウイズ・ユー ④ ハイ・フライ ⑤ プッツェイン・オン・ザ・リッツ ⑥ ウォーキン ⑦ モーニング ⑧ シン・グ・ア・シナーズ ⑨ ウィズ・ア・バット ⑩ オン・グリーンドルフィン・ストリート ⑪ シドニース・ソリロキー ⑫ ライト・ナウ

メル・トーマー (vo)、ショッフィー・ロジャース (flh, dir, arr, cond)、クラウス・オスカー・マウラ (arr, cond)

【録音】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 1962年7月13日 ハリウッド ③⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 1962年9月13日 ニューヨーク

粋でジャズなメル・トーマーのセンスがよく発揮されているアルバム。タイトル曲は書かず知れたハービー・マンのヒットで、女性コーラスと掛け合うような当時の歌謡曲が持つに似ている。同じくハービー・マンの(ライト・ナウ)をはじめ(モーニング)(ダット・デア)(ウズ・ア・バット)など、ハード・バップ〜フュージョン・ジャズの名ナンバーが多くとりあげられた、メル・トーマーの作品の中でもとびきりのヒット作である。

ハイノードで知られるルーレットの看板トランベッターとアトランティックのクールな歌姫という大スターの顔合わせ。「ダブル・エクスボージャ」と対をなす、もう1枚の人気盤。

WPCR-29343 国内初CD化 歌詞付 **[ROULETTE]**

メイナード・ファーガソン&クリス・コナー 『トウズ・カンパニー』

1 アイ・フィール・ア・ソング・カミング・オン / **2** サウンド / **3** ニューヨーク・マイ・ホーム / **4** ゲス・フォー・アイ・ソウトゥ・デイ / **5** ホン・ザ・サン・カムズ・アウト / **6** セント・フォーミー / **7** ホエアドゥ・ユー・コー / **8** サムシング・ズ・カミング / **9** デイ・ブリンク **10** キャント・ゲット・アウト・オブ・ジューズ **11** クリス・コナー (vo), メイナード・ファーガソン (tp, flhrn, sb), コルフ・エリックソン, チェット・フレデリック, ヴァン・ヘレン (tp), レッド・バグジー (tp), デニー・アムス (tp), ジョー・マッキー (ss, fl), クワイマズ (fls, ds, arr), フランシス・ター (bs, b), ジャッキー・ピアード (p), ティーラ・ソーンターズ (d), ルーファ・ジョーンズ (s), ドゥース・ルー (arr) **【録音】**1960年12月15日 **ニューヨーク** / **17**1960年12月22日 **ニューヨーク** **【再録音】**1961年1月9日 **ニューヨーク**が原典、ビル・ペー10)が加わる。

メイナード・ファーガソン楽団を向こうに回して、クリス・コナーが胸のすくような名曲を繰り繰り返したルーレットの吹き込み。アトランティック盤(トウズ・カンパニー)にメイナードを賞したのに対して、クリスを描ける形で表現した。アッパ・テンの爽快なナンバーからミュージック・バラッドと幅広い選曲。ダイナミックなオーケストラをバックに歌いこなすクリスの歌声に、バンドンガーだった彼女の本来が見える。

美しい情感とスリル、3種のコンボをバックに、有名スタンダードを自由奔放に歌ったアトランティック時代の傑作。

WPCR-29345 歌詞付 **[ATLANTIC]**

クリス・コナー 『クリス・クラフト』

1 ヴァーモントの月 / **2** 吹け、ガブリエル / **3** ヒア・ライズ・ラヴ / **4** ビー・アクラン / **5** グッド・フォー・ナッシング / **6** オン・ザ・ファースト・ウォーム・デイ / **7** 私の私你的なワン / **8** ワン・ラヴ・アフエア / **9** ナイト・ウィ・コールド・イット・ア・デイ / **10** ジョニー・ワン・ノート / **11** ライヴァーズ / **12** ビー・マイ・オール
クリス・コナー (vo), ホルビー・ジャズパー (fl), アル・エプスタイン (english horn, b-cl), スタンプリー (pr, arr), マンデルロウ (p), パーシー・ヒース, ジョージ・デュヴィエイ (b), エド・ジョブネー (ds) **【録音】**23,17,9,1958年3月13日 **ニューヨーク** / **11,16,12**1958年4月8日 **ニューヨーク** / **14,10,10**1958年5月23日 **ニューヨーク**

クリス・コナーがもっとも充実した歌声を聴かせたのはアトランティック時代だが、本アルバムは58年におこなわれた3回のセッションを収めている。このときクリス30歳。安定した表現とともに円熟と向かう歌唱が、じつに素晴らしい。名スタンダードとともに(ヒア・ライズ・ラヴ)グッド・フォー・ナッシング)などの隠れた名作が多く含まれているのも嬉しい。老舗モーターストリー・レーカーの名にひっかけたタイトルも、じつにクールだ。

スタン・ケントン楽団でも活躍した美人歌手のアン・リチャーズが1961年、レナード・フェザーの監修で吹き込んだ官能的な魅力いっぱいの人気盤。パーニー・ケッツェルとジャック・シムズをばじめとするコンボの伴奏も好演。

WPCR-29347 歌詞付 **[ATCO]**

アン・リチャーズ 『アン・マン!』

1 イェス・サー・ザッツ・マイ・ベイビー / **2** アン・オーケイジョナル・マン / **3** 心安まる頃 / **4** マスカレード・イズ・オーヴァー / **5** 忘れられぬ君 / **6** あなたの心は / **7** アンド・ザッツ・オール / **8** 魅惑されて / **9** イーヴィル・キヤル・ブルース / **10** ラヴ・イズ・アフ・ド・フー・ザ・ブルース / **11** ハッド・ア・イルク・クイン・ブルー / **12** アイクドゥント・スリープ・ア・ウィーク・ラスト・ナイト
アン・リチャーズ (vo), ジャック・シムズ(tp) **11** **12** **17** **9** **10** **1968年6月27日** **ロサンゼルス** / **1,3** **18** **1968年6月28日** **ロサンゼルス** / **19** **1967年10月28日** **ニューヨーク** **【録音】**1961年 **ロサンゼルス**

スタン・ケントン楽団に加わって華麗なデビューを飾り、すぐにケントンの妻になった美人シンガーアン・リチャーズは、真の実力をもっているヴァーカルイストでもあった。61年にアトランティックの音楽のアドに吹き込まれた本作は、スモウル・コンボをバックにスインギなナンバーとバラッドが好ましいサウンドで聴かせていて、のびやかなリチャーズの好曲を楽しむことができる。モキシシーなアルバム・ジャケットも魅力。

ついに復刻!「ニューヨークのため息」と形容されるメリルが、カントリーの名曲を歌った異色の激レア盤。

WPCR-29349 歌詞付 **[ATCO]**

ヘレン・メリル 『アメリカン・カントリー・ソングス』

1 メイビー・トゥ・モロー / **2** アים・ソー・ロンスサム・アイクドゥ・クラ / **3** ユードント・ノウミー / **4** カンダム・トウズ・アフ・アウト・ラ・イアル / **5** ユー・ウィン・アゲイン / **6** アイム・ヒト・トゥ・グット・メイ・ベイビー・アウト・オブ・シェイク / **7** ア・ハート・フル・オブ・ラブ / **8** コールド, コールド・ハート / **9** デイヴ・オー・デッド・トウ・ユー / **10** マイ・ハート・ウツノウ / **11** エニー・タイム / **12** ハーフ・アズ・マッチ
ヘレン・メリル (vo), ケネス・ホーク (vb), ハリル・コウスキ (vn), マンデルロウ, ビル・ザイガー (d), ジョー・ビッシュ・デュヴィエイ (b), ジョー・ジョーンズ (ds), ジャック・ウェッセル (arr, cond) **【録音】**17,17,7,1959年5月25日 **ニューヨーク** / **10,10,10**1959年6月3日 **ニューヨーク** / **13,13**1959年6月11日 **ニューヨーク**

ウォームでちょっとびっくりハスキーな歌声が魅力の人気シンガー、ヘレン・メリル。そんなヘレンがカントリー・ナンバーばかりをとりあげて歌ったアルバムで、素直なヘレンの表現はまさに素朴なカントリー・メロディにもぴったりなものがある。(コールド, コールド・ハート)をはじめとするハンク・ウィリアムスの名曲4曲、エディ・アーノルド(ア・ハート・フル・オブ・ラブ)をはじめ、夢見るように美しい世界が描き出されてゆく。

かつて日本でのみ発売された、シングル盤用のセッションを集大成したアルバム未収録のレア音源集。

WPCR-29344 歌詞付 **[ATLANTIC]**

クリス・コナー 『ミスティ』

1 セニール・ブルース / **2** ミスティ / **3** ムーン・ライド / **4** アイ・ソールド・マイ・ハート・トゥ・ザ・ジンクマン / **5** イン・ワイティション / **6** ハリの空の下 / **7** アイ・ハート・ア・フル・バード / **8** フライング・ホーム / **9** アイ・ウォント・クライ・エニエア / **10** サカカ / **11** トゥ・ホイ・チ・ヒズ・アウト / **12** フォー・チュンク・ウィズ・ / **13** ロック・トゥ・ザ・マリー / **14** ゴ・ザ・マスカレード・イズ・オーヴァー
クリス・コナー (vo), ボビー・ジャズパー (fl), スタンプリー (pr), ハリー・ガルブレイス (g), エド・ジョブネー (ds), ラルス・シロウ (arr, cond) **【録音】**17,16,10,1958年4月29日 **ニューヨーク** / **11** **1958年7月31日** **ニューヨーク** / **9** **1959年3月10日** **ニューヨーク** / **17** **1959年9月6日** **ニューヨーク** / **10,10**1959年12月22日 **ニューヨーク** / **13**1960年1月28日 **ニューヨーク**

円熟の境地に達していたアトランティック時代のクリス・コナー。そんなクリスが同レベルに吹き込んだシングル盤(EP盤)など14曲をまとめてアルバム化したもので、70年代にワナー・パイオニアから日本のみで発売になった貴重な1枚である。ハスキーなヴォイスとモダンな節まわしでクリスが聴かせる名曲、ベノニスを含んだクリス・コナーの歌声にたっぷりひたることのできる、ファン必聴のコレクターズ・アイテムである。

ジャズ界のファースト・レディが、ジェラルド・ウィルソン編曲指揮のオーケストラをバックに60年代にヒットしたポップの名曲を中心に取り上げた代表作。

WPCR-29346 歌詞付 **[REPRISE]**

エラ・フィッツジェラルド 『ヴァーサイル・エラ』

1 サニー / **2** マジック・ナダ / **3** 男と女 / **4** 涙びりの日々 / **5** ブラック・コーヒー / **6** 好き好き・ジャンク・ジャンク / **7** 悲しいいわさ / **8** ハット・トリム / **9** オン・ザ・エッジ・オブ・タイム / **10** ジョー・ジャックス・イントロ・ポット / **11** セイ・ユース・トゥ・ミー / **12** ウィロー・ワーフ・フォー・ミー / **13** マンテカ / **14** ジャスト・ホェン・エラ・フィッツ・オーリಂಗ・イン・ラヴ
エラ・フィッツジェラルド (vo), ハリー・エディング (tp), J.J. ジョーンズ (hb), ロルト・パーカ (bs), ボビー・トッチャー (vb), ジョー・ザッパル (org, el-p), トニー・フランカ (p), ハーブ・エリス (g), レイブラッド (b) **【録音】**15,10,1970年1月4日 **ハリウッド** / **13** **1970年1月5日** **ハリウッド** / **2** **1970年1月8日** **ハリウッド** / **11** **1970年12月21日** **ハリウッド** / **2** **1970年12月22日** **ハリウッド**

ソウル、R&Bのヒット・ナンバーからスタンダード、ボサ・ノヴァ曲と、さまざまなジャンルのナンバーにアプローチをおこなってあげたエラ・フィッツジェラルド71年のアルバム。グルーヴなノリと表情が素晴らしいヒット曲(サニー)や(悲しいいわさ)。すべての曲がエラ・フィッツジェラルドならではの表現スタイルでつかみどころなく、まさに貫録もの! アフロ・キューバンの名作(マンテカ)も、圧巻の迫力で聴かせている。

サイモン&ガーファングルやミシェル・クルガンのヒット曲を始め、コンテンポラリーなナンバーに果敢に挑戦したカーメンの意欲作。ダウンビート誌のレビューで最高点(5つ星)を獲得、グレイト・アメリカン・ソングブックの原点がここに。

WPCR-29348 歌詞付 **[ATLANTIC]**

カーメン・マクレエ 『サウンド・オブ・ランズ』

1 サウンド・オブ・サイレンス / **2** アイ・ガット・イット・バッド / **3** マッ・カサー・バーク / **4** ウォッチ・ホット・ハブズ / **5** スターダスト / **6** 仕かなくて / **7** 暗い日曜日 / **8** アイ・ソールド・マイ・ハート・トゥ・ザ・ジンクマン / **9** ア・バタ・アラ / **10** マイ・ハート・リ・マインズ・ミー / **11** 互に住む日々 / **12** キャン・ユーズ・レ / **13** **オリジナルLP未収録曲** / **14** ハリのめぐり逢い / **15** **オリジナルLP未収録曲** / **16** **MONO**
カーメン・マクレエ (vo), ハービー・マン (fl), ノーラン・シモンズ (s), ジョン・リンズ (ds), ショーティー・ロジャース (arr, cond) **【録音】**24,15,15,1968年6月26日 **ロサンゼルス** / **11,17,16** **1968年6月27日** **ロサンゼルス** / **1,18,18** **1968年6月28日** **ロサンゼルス** / **19** **1967年10月28日** **ニューヨーク**

サイモン & ガーファングルの大ヒット曲を、ポップなビートに乗せて歌うカーメン・マクレエ。豊かな表現力とともに、完璧に彼女のジャズ・ヴォーカル表現になっているのが、じつに素晴らしい。ジム・ウェッブ(マッカパーサー・バーク)などコンテンポラリーなナンバーを積極的にとりあげるとともに、(スターダスト)(暗い日曜日)などの古典曲も、彼女のスタイルでじっくり聴かせている。カーメンの芸術の幅広さがよく出ている大傑作。

大歌手サラが、ドン・コスタ指揮のスリングス・オーケストラをバックに、不滅の名曲を情感豊かに歌った心温まるバラッド・アルバム。

WPCR-29350 国内初CD化 歌詞付 **[ROULETTE]**

サラ・ヴォーン 『スノー・バウンド』

1 スノー・バウンド / **2** あなたがはじめて / **3** ホワッツ・グッド・アバウト・グッド・バイ / **4** 星影のステラ / **5** ルック・トゥ・ユー・ア・ハート / **6** ユー・オーケレージュー・ミー / **7** プラ・プラ・プラ / **8** **オリジナルLP未収録曲** / **9** アイ・ワット・イン・ラヴ・トゥー・イージー / **10** グラッド・トゥ・ビー・アン・ハッピー / **11** スプリング・キャン・リリアン・ハンク・ユー・アップ・ザ・モスト
サラ・ヴォーン (vo), ドン・コスタ (dir), オークストラ **【録音】**17,17,16,18,10,1962年7月23, 24日 **ニューヨーク** / **1,13** **17** **1962年7月27日** **ニューヨーク**

"外は降りしける雷。そんなときには暖炉の火のもとで、ゆっくりと温まりたい"とライナーノートの書かれている。そんなハートフルな温かさをいかに感じさせてくれるサラ・ヴォーンのバラッド・アルバム。スタンダード曲を中心に選んで、サラはしっかりと、しかし確かな表情で歌ってゆく。(アイ・ワット・イン・ラヴ・トゥー・イージー)は舌をまく手さ。弦楽器を中心にしたドン・コスタのアレンジも、とても美しい。

JAZZ
MASTERS
COLLECTION
1200

第1弾 ~ 第8弾
全 250タイトル
INDEX

今までにリリースした全250タイトルを、アーティスト、タイトル、50音順に記載しております。連名または名義異なる作品も、代表アーティストの欄にまとめて記載しております。

	アーティスト	アルバム・タイトル	品番 (wpcr)	✓	アーティスト	アルバム・タイトル	品番 (wpcr)	✓	
A	アート・ファーマー・カルテット	インタクエション	29191	✓	ジャック・ティーガーデン	ジャック・ティーガーデン・アット・ザ・ランドテーブル	29130	✓	
		スウェーデンに愛をこめて	29129		ディキシー・サウンド・オブ・ジャック・ティーガーデン	ディキシー・サウンド・オブ・ジャック・ティーガーデン	29217		
		ブルースをそっくり歌って	29116		ミスター・Tの肖像	ミスター・Tの肖像	29194	✓	
		ライブ・アット・ザ・ハーフ・ノート	29160		ジョー・ウィリアムス	スウィンギン・ナイト・アット・バードランド	29144	✓	
	アート・ブレイキー	アート・ブレイキー・ジャズ・マックス・ジャズ・ウィズ・セロニアス・モンク	29165	✓	トゥザ・サー	トゥザ・サー	29197	✓	
		キュー・バックス	29022		ジョー・ザヴィナル	ザヴィナル	29081	✓	
		ゴールデン・ボーイ	29023		マネー・イン・ザ・ポケット	マネー・イン・ザ・ポケット	29035	✓	
		ジプシー・フォーク・テイルズ	29126	✓	ジョニー・ニューマン	ロックン・ホーンズ	29027	✓	
B		ドラム・ナイト・アット・バードランド	29069	✓	ジョー・ビュマ	ジャズ	29158	✓	
		ドラム・ナイト・アット・バードランド Vol.2	29070	✓	ジョニー・グリフィン	ソウル・グルーヴ	29231	✓	
		バック・キヤモン	29102	✓	ジョニー・スミス	イー・ジャーリスニング	29084	✓	
	アイリーン・ワッツ	イツ・レイト	29120	✓	ヴァーモントの月	ヴァーモントの月	29024	✓	
	アン・フィリップス	ボート・トゥ・ビー・ブルー	29247	✓	ギター&ストリングス	ギター&ストリングス	29239	✓	
	ヴァイ・ヴェラスコ	シンキング・ボサ・ノヴァ	29248	✓	サウンド・オブ・ジョニー・スミス・ギター	サウンド・オブ・ジョニー・スミス・ギター	29240	✓	
	ワイルド・ボブ	ボボズ・ビート	29170	✓	ザ・ジョニー・スミス・カルテット	ザ・ジョニー・スミス・カルテット	29117	✓	
	ウィル・デイヴィス	ハヴ・ムード・ウィル・コール	29235	✓	ジョニー・スミス・フォー・サム Vol.1	ジョニー・スミス・フォー・サム Vol.1	29210	✓	
	ウォーン・マッシュ	ウォーン・マッシュ	29156	✓	ジョニー・スミス・フォー・サム Vol.2	ジョニー・スミス・フォー・サム Vol.2	29211	✓	
	E	エル・エニス	ララバイズ・フォー・ルーズ・サーズ	29119	✓	デザイン・フォー・ユー	デザイン・フォー・ユー	29157	✓
	エタ・ジョーンズ	エタ・ジョーンズ・シングス・ウィズ・エタ・アマノス&ケニー・バレル	29091	✓	ジョニー・スミス・カルテット	ジョニー・スミス・カルテット	29025	✓	
	エディ・コスタ	エディ・コスタ・デ・ヴェニエ - パーク・トリオ	29033	✓	フェイス・アット・リングス	フェイス・アット・リングス	29141	✓	
エディ・ヒギンズ・トリオ	ソレロ	29185	✓	ブラス・サトリオ	ブラス・サトリオ	29183	✓		
オナーネット・コールマン	オナーネット・オン・テナー	29205	✓	マイ・ディ・アット・ル・スウィート・ハート	マイ・ディ・アット・ル・スウィート・ハート	29212	✓		
	オナーネット!	29154	✓	ジョニー・ソーマ	ボジティヴ・リー・ザ・モスト	29149	✓		
	オナーネット・オナーネット・オナーネット	29018	✓	ジョニー・ソーマ	アイ・ソート・ア・ワット・ユー	29118	✓		
	フリー・ジャズ	29178	✓	ジョン・コルト・レーン	アヴァンギャルド	29061	✓		
K	ギル・エヴァンス	スウェンガリ	29039	✓	オレ!	オレ!	29059	✓	
	クラーク・テリー	エディ・コスタ・メモリアル・コンサート	29216	✓	コルト・レーン・サウンド(夜は千の眼を持つ)	コルト・レーン・サウンド(夜は千の眼を持つ)	29009	✓	
	クリス・コナー	ヴィレージ・ゲイトのクリス・コナー	29044	✓	コルト・レーン・ジャズ	コルト・レーン・ジャズ	29007	✓	
		クリス・コナー	29043	✓	コルト・レーン・ブレイズ・ブルース	コルト・レーン・ブレイズ・ブルース	29060	✓	
		パリの週末	29092	✓	ジャイアント・ステップス	ジャイアント・ステップス	29006	✓	
		ボート・トレイト・オブ・クリス	29093	✓	マイ・フェイス・アット・リングス	マイ・フェイス・アット・リングス	29008	✓	
	ココ・ラーリー・デイ	マイ・クライング・アワー	29221	✓	ジョン・ハンディ	イン・ザ・ヴァン・クエラ	29066	✓	
	コンテ・カンドリ	ウエスト・コースト・ウエイラーズ	29192	✓	ノー・コースト・ジャズ	ノー・コースト・ジャズ	29132	✓	
	ザ・コールドマン	ジャマカ	29134	✓	ジョン・ルイス	アフター・サウンズ・イン・パリ	29112	✓	
	サラ・ヴォーン	アフター・アワーズ	29050	✓	オーケストラ・U.S.A	オーケストラ・U.S.A	29244	✓	
		ザ・ヴィン・ワン	29097	✓	ジョン・ルイス・ピアノ	ジョン・ルイス・ピアノ	29080	✓	
		サラ・ヴィン・ワン	29250	✓	スズート・シムズ	ジャズ・ミッション・トゥ・モスコ	29201	✓	
L		サラ・ヴィン・ワン	29098	✓	スズート・シムズ・オン・デュクレ・レ・ト・ムソン	スズート・シムズ・オン・デュクレ・レ・ト・ムソン	29176	✓	
		ジ・イクスプローシヴ・サイド	29124	✓	ニュー・ビート・ボサ・ノヴァ Vol.1	ニュー・ビート・ボサ・ノヴァ Vol.1	29226	✓	
		スイート・&・ザッシー	29225	✓	ニュー・ビート・ボサ・ノヴァ Vol.2	ニュー・ビート・ボサ・ノヴァ Vol.2	29227	✓	
		スター・アイズ	29175	✓	スベック・オブ・ワエル	スベック・オブ・ワエル	29218	✓	
		ドリー・ミー	29049	✓	スライド・ハンブトン	ザ・ファビュラス・スライド・ハンブトン・カルテット	29077	✓	
		ユー・アー・メイン・ユー	29150	✓	セルダン・パウエル	セルダン・パウエル	29005	✓	
		ロンリー・アワーズ	29200	✓	セルダン・パウエル・エクス・テット	セルダン・パウエル・エクス・テット	29057	✓	
	サル・サルヴァドル	ミュージック・トゥ・ストップ・スモークン・バイ	29241	✓	ソニー・ステット	37ミニッツ・アヘッド・48セカズ	29055	✓	
	ジーン・クイル	3ボーンズ・アヘッド・ア・クイル	29108	✓	アトリル・ビッソ・オブ・ステット	アトリル・ビッソ・オブ・ステット	29104	✓	
	ジーン・ハリス	アウ・ラヴ・イズ・ヒト・ア・ホ・ステイ	29184	✓	ザ・サキソフォーンズ・オブ・ソニー・ステット	ザ・サキソフォーンズ・オブ・ソニー・ステット	29056	✓	
		ジニー・マン・ソウル	29169	✓	ザ・マタドールズ・ミート・ザ・パル・ステット!	ザ・マタドールズ・ミート・ザ・パル・ステット!	29202	✓	
	ジェシー・パウエル	プロウ・マン・プロウ	29180	✓	ステット・ゴース・ラテン	ステット・ゴース・ラテン	29127	✓	
ジジ・グライス	ジャズ・ラブ	29064	✓	ステット・ブレイズ・バード	ステット・ブレイズ・バード	29153	✓		
ジミー・ジュアリー	ウェスタン・組曲	29233	✓	ソニー・サイド・オブ・ステット	ソニー・サイド・オブ・ステット	29105	✓		
	ジミー・ジュアリー-3	29208	✓	ジニー・マン・ソウル	ジニー・マン・ソウル	29004	✓		
	トラヴェリン・ライト	29179	✓	ニアネス・オブ・ソウル	ニアネス・オブ・ソウル	29003	✓		
ジミー・ラッシュ	フェイス・アット・オブ・ソウル	29245	✓	ブロード・ウェイ・ソウル	ブロード・ウェイ・ソウル	29177	✓		
ジミー・ロウルズ	フェイス・アット・オブ・ソウル / メリー・サン・シャイン・ダウン・タウン	29236	✓	ペン・オブ・クインシー	ペン・オブ・クインシー	29002	✓		
ジャッキー・マクドリン	ジャッキー・マクドリン・クイン・テット	29001	✓	ダイナ・ワシントン	イントロ・ビュート	29198	✓		
	アット・ジャズ	29030	✓	イン・ラヴ	イン・ラヴ	29123	✓		
ジャッキー・&ロイ	バイ・ジェニター-&ガール・クレイジー	29053	✓	ダイナ*62	ダイナ*62	29046	✓		
ジャック・ウィルソン	ジャック・ウィルソン・カルテット・フィーチャリング・ロイ・エアース	29187	✓	ダイナ*63	ダイナ*63	29095	✓		
ジャック・ティーガーデン	ジャズ・マーヴェリク	29161	✓	ドリンキング・アゲイン	ドリンキング・アゲイン	29173	✓		